

項番	議題	主なご意見	対応方針
1	観察会について	観察会が第1回、第2回と予定されている。観察の対象が浅間山公園と武蔵台緑地であったが、これはどちらも雑木林が主体の公園だと思う。府中市の生物多様性を考えたときに、この2つは水辺が完全でない。府中市は多様な環境を有しており、環境の多様性というところでは、多摩川やほかの丘陵地であったり、第1回、第2回の観察会の場所はもう少し違う環境のほうがいいのではないか。	1回目は、新型コロナウイルス感染症の関係もあるので都立公園でそういったかたちがとれるかというご相談もする必要があるが、浅間山公園もしくは武蔵台緑地のどちらかという方向で考えます。(中止) 2回目は、皆様のご意見を伺ったうえで、改めて10月までに適切な候補地を見つけます。
2		浅間山と武蔵台緑地は府中市の主要な緑地なので、多くの人は知っている。多様性戦略ということを見ると、誰が見ても当たり前には守らなければいけないような緑地だけではなく、もう少し身近な、例えば学校の敷地や、都市公園的なところで何ができるのかということを見ておくことも大事なかなと思う。多摩川なども含めて、観察会の場所に関してはもう少し考えたらどうか。	
3		この観察会について日程を教えほしい。	
4	資料3 生物多様性及び生物多様性地域戦略の概要について	資料3 生物多様性の3つのレベル 「種の多様性」と「遺伝子の多様性」は別々に記載があるが、生き物同士のつながりを断ってしまうと多様性は成り立たなくなるので、種同士のつながり、生き物同士のつながりの概念を1つ入れてほしい。	ご指摘を踏まえて、資料のブラッシュアップしていきます。
5		府中という土地が経験してきた歴史の中でこの自然がある。府中にあるものは過去からのつながりのものであり、未来にもつないでいこうということが最初に書くといい。	
6		資料3 1.3 生物多様性の4つの危機 第2の危機 吉川先生の意見に全面的に大賛成である。そういう意味では「第2の危機」のところにあるエゾシカの食害などは、「里地里山の手入れ不足」というよりは、生き物同士のつながりが損なわれたことのほうになるのかなというところで、この項目は整理が必要だと思う。 「里地里山の手入れ不足」に対しては、雑木林だったり、竹林だったり、溜池のかいぼりだったりという方向で示していければいいのかなと思う。	
7	資料3 1.3 生物多様性の4つの危機 事例等でこういう写真とか事象を載せる際に、東京都とか府中市の事例があればよい。	検討いたします。	
8	資料4 府中市の概況と生物多様性に関する環境現況について	P.6 1.6 産業構造 産業分類別の事業所数だけあげるのではなく、第一次、第二次、第三次の就業人数を示し、例えば、農業はどんどん就労人口が減っているから生物多様性に影響するなど示せるデータをほしい。	1 府中市の概況 については、温暖化対策部会でも共通のデータとなり、生物多様性を考えていくうえでヒントとなりうる可能性があり、示しています。 生物多様性に特化して参考となるのは、2.府中市の生物多様性に関する環境現況 で示しています。
9		P.21 表2-7～表2-10 重要種選定基準で、「東京都レッドリスト、レッドデータブック2020」参照とあるが、2016年の国勢調査時点でのランクとなっているので、整合してほしい。	「東京都レッドリスト、レッドデータブック2020」のカテゴリーで再整理しました。
10		P.28 2.1 水辺 (2)湧水 浅間神社の湧水は、実際にはお水手洗神社の祠の下から出ている。記載する場合は、注意してほしい。	留意いたします。
11		資料4 調査した昆虫や植物、鳥類、魚類が載っています。爬虫類はないのか。ヘビとかカエルはないのですか。アユも入っていない。	第1回部会時点で調査している資料の中では爬虫類に関するデータがなかったため資料に載せていませんでしたが、爬虫類・両生類など新たな情報は把握しておりますので、次回以降ご紹介してまいりたいと思います。

12	アンケート調査(案)について	前回の審議会で、アンケート全体のボリュームが多すぎると答えにくい回答者が減る、というご意見があった。その辺はもう変えない方針か。	アンケート調査票については、今後見直していきます。
13		アンケートの中で、「どちらともいえない」という回答があるが、ない方がよいのではないか。	アンケート調査票については、今後見直していきます。
14		若者にも回答を期待するということであれば、例えばウェブやスマホ等でも回答ができるようなことは考えられているのか。	ウェブで、できるだけ若年層ですとか若い年代の方からも回答が得られるように調整しています。
15		今後アンケート結果をどうやって政策に結びつけるのかにもよりますが、1500人無作為抽出という形式をとっていますが、年代の配分は考えられているのか。	年齢に関しましては、市の住民票台帳から無作為抽出しますので、確率的に市全体の年齢構成に近い配分になると考えております。ほかの自治体様の事例では、年齢で分けながら階層的な無作為抽出を図ることもございますので、無作為抽出については今後事務局で詰めていきます。
16		資料6の3、6ページの問7 2と3はあまり違いはないが、分ける必要があるのか。	地域生活に直結する質問ということではなく、環境全般の質問ということで入れさせていただいているものです。アンケート全体について温暖化部会、審議会本会と共有して検討させていただきます。
17		設問の最後に、「継続」とか「新規」とかありますが、「継続」とあるのは、前回と同じ設問ということか。	そのとおりです。説明文の最後に「継続」ですとか「新規」という言葉を括弧書きで入れています。
18		比較対象となる前回行ったアンケートは1回ですか。それとも何回かこれができるのか。1回だとしたらやはりもう1回聞いたほうがよいような気がする。やはり比較してみないと何も分からないこともあると思いますし、回答者の方にご負担にならない範囲で、「継続」に関しては基本的にはもう一度やってみようという方向でいかがか。	前回行ったアンケートは、現行計画策定時に1回だけ行ったアンケートになります。
19	その他	生物多様性と病害虫に対する薬剤散布とのバランスの指標のようなものは記載はないのか。生物多様性を期待しながらも、病害虫に対する農薬散布とか薬剤散布のバランスが非常に大事だと思うが、ガイドラインが何かはあるのか。	農業、農地は生物多様性に極めて関係してくるもので重要であります。ただし、現在、市で農業施策に関する詳しい情報がなく、農業の業界全体での取組情報をご提供して、また改めて施策に落とし込むかどうかを議論したいと思っています。
20		水路のあり方によっては、生物多様性が実現しやすい環境づくりになると思う。農工大の分倍河原の税務署前の田んぼの水を、西府崖線下の湧き水や水路から引っ張ると、国立の谷保天神からもつながり、ホテルの生息も可能になるのではないか。	農工大での検討状況を伺いながら、検討いたします。
21		水辺環境は生物多様性に非常に重要であり、府中市周辺では、崖線と湧水存在し、これらを保全するために、水辺と緑のとらえ方について、施策を考えていく必要がある。また、府中市は唯一田んぼが残っている市で、それは生き物にとっては貴重な環境であり、田んぼの水源を保全していく方向でも考えていく必要がある。	検討いたします。
22		この計画を実りのあるものにするには、普及啓発が非常に大事だと思う。進める側だけでなく、実際に行うのは我々だけでなく、市民のほうでもいろいろなことに携わっている方々ではないかと思う。	地域戦略を作るにあたり、普及啓発の部分をはじめとした色々な構成については、皆さんのご意見を踏まえながら組み上げていきたいと思っています。特に、方向性の合意形成の部分は、この部会で決めていき、市がそれを預かって進めていきたいと考えています。
23		今ある場所を守っていくことはもちろん大切ですが、失われたものを再生していくということは、盛り込んでいくといいのではないか。	検討いたします。
24		水辺の学校について、捕る、育てる、食べるというところまでいかないといい環境とは言えないのではないか。また、多摩川がその支流について、同時に清掃日を決めた方がよいのではないか。アユの遡上を目安にする目標ははっきりするのではないか。	多摩川の魚や水生生物について知っていただくための水辺の学校のイベントなどもあります。その水辺の学校のイベントの中で、河口観察会を実施しております。河口観察会では、子どもたちにハゼ釣りをしてもらい、子どもたちが捕ったハゼをその場で調理して食べてもらうというのを今までやってまいりました。
25		郷土の森の横のバーベキューをやれるところは今閉鎖していますが、あの辺がアユ釣りの名所になるような環境政策という運動をすれば、もっと観光客も増えるのではないか。また、郷土の森は非常にいい森のため、生物多様性の重要な拠点になるが、水源の部分も含めて、もうちょっと整備した方がよい。	検討いたします。